

1. 技術体系の特徴

経営類型	労働力	品目・栽培型及び規模	経営・技術の特徴	
茶協業 (乗用型)	人 4	a	1. 専業農家4戸が経営を共同化し、製茶工場を新設、農機具を新たに整備する。茶園は、各自の従前からのものを継続管理し、そのうち、面積の1割については、基盤整備を伴う改植を実施する。 2. 品種は早生品種「さえみどり」等を3割(うち1割を改植)、「やぶきた」5割、晩生品種「おくゆたか」等2割とし、蒸製玉緑茶を生産する。 3. 目標収量は、標準技術で達成可能な収量とし、「やぶきた」成園の10a当たり生産量で、一番茶550kg、二番茶400kg、三番茶250kgとする。 注) 4. 栽培方式は高品質茶生産を図るため、被覆栽培とする。 5. 防霜ファンは、茶園の80%に設置し、生産安定を図る。 6. 製茶加工は、120K型1.5ライン(3-2-3-2)2系列による生産と、工場の生産性を高めるため、600a分の一番茶生葉の受託加工を行う。	
		生葉生産		1,800
		荒茶生産		1,800
		受託加工(生葉)		600
		幼木園育成		200
		経営規模		2,000
		耕地面積		畑(成園) 1,800 畑(改植による幼木園) 200
経営目標	1 農業総収入 100,010 千円 2 農業経営費 79,246 千円 3 農業所得 20,765 千円 構成員一人当たり (5,191 千円)	4 1日当たり農業所得 24,935 円 5 1人当たり年間労働時間 1,666 時間		

注) 生産性・作業性の向上のため、定期的の中切・深刈更新を実施し、更新後の茶葉の摘採は行わないこと(二番茶は面積の2割、三番茶は面積の5割を不摘採)や、品種により植栽面積が異なるため、経営全体における実質的な平均生葉収量は、10a換算で一番茶561kg、二番茶338kg、三番茶97kg、秋番茶178kg、合計1,174kgとする。

2. 資本装備と減価償却費

	種類・規模	数量	型式・構造・能力	所有割合	取得価格	耐用年数	年間償却額
建物・施設	防霜ファン 1,000a(既存)		1,000a 3~4.5kw/10a	1	43,200	7	2,345
	防霜ファン 600a(気温差制御機能)		600a 3~4.5kw/10a	1	65,520	7	3,557
	製茶工場 1,400㎡		鉄骨スレート葺き	1	132,314	38	3,482
	製茶機 120K 1.5ライン(3-2-3-2) 2系列		生葉処理量 720kg/時間	1	338,500	10	12,863
	計				579,534		22,247
農機具	乗用型摘採機(浅刈、刈捨装置を含む)	2	34.3ps	1	13,262	7	720
	乗用型防除機	2	27.5ps・茶少量農薬散布用	1	7,541	7	409
	乗用型管理複合機(施肥・堆肥散布・中耕装置含む)	1	43ps	1	9,584	7	520
	乗用型管理複合機(サブソイラー・施肥・堆肥散布・中耕装置含む)	1	43ps	1	10,382	7	564
	自走式両面裾刈機	3	23cc	1	698	7	38
	乗用機械運搬車(2tスライダー)	2	2t	1	11,000	5	1,100
	普通トラック	2	2t	1	7,512	5	751
	草刈機	6	21cc	1	82	7	4
計				60,060		4,107	

3. 技術体系

1-1) 作業体系[茶協業(乗用型)]

(10a当たり:人、時間)

作業の種類	栽培技術		作業体系				使用資材	技術の重要事項	
	技術内容	作業時期	使用機械器具	組み作業人員	実作業時間	延べ作業時間			
栽	施肥	畦間全面に施肥したあと、管理機で浅耕する。	春肥	乗用型管理機(肥料散布・中耕装置)	2	0.3	0.6		施肥基準による。 肥効調節型肥料使用の場合は、追肥を省くことが出来る。 芽出し肥に液肥を施用する場合は乗用型防除機を活用し、株元へ散布する。
	浅耕		2月下旬~3月上旬		2	0.3	0.6		
4月上旬			2		0.3	0.6			
追肥Ⅰ			2		0.3	0.6			
5月中~下旬			2		0.3	0.6			
追肥Ⅱ			2		0.3	0.6			
6月下旬~7月上旬			2		0.3	0.6			
秋肥			2		0.6	1.2			
培	除草	摘採面及び株元の除草を人力で行う。	4月中~下旬		4	0.5	2.0		
			6月上~旬		4	0.5	2.0		
			7月中~下旬		4	0.5	2.0		
			8月中~9月上旬		4	0.5	2.0		
			10月下~11月上旬		4	0.5	2.0		
管	病虫害防除	ハマー防除の場合は葉裏まで十分付着するよう散布する。	2月上~中旬	乗用型防除機(少量農薬散布用)	2	0.4	0.8	病虫害防除基準による。 殺ダニ剤 400ℓ/10a 殺虫・殺菌剤 100~120ℓ/10a クワシロカイガラムシ 1,000ℓ/10a(2年に1回)	
			2月中~下旬		2	0.4	0.8		
			4月上旬		2	0.4	0.8		
			5月下旬		2	0.2	0.4		
			7月上~中旬		2	0.2	0.4		
			8月中旬		2	0.2	0.4		
			8月下旬		2	0.2	0.4		
			9月中旬		2	0.2	0.4		
品質向上	被覆	被覆は直接掛けとする。	一番茶期		5	0.3	1.5	化繊寒冷紗 600m 茶用ピンチ	期間は、一番茶で7~10日間、二番茶で5~7日間行う。 遮光率60%程度のものを用いる。
			二番茶期		5	0.3	1.5		
摘採	摘採	一番茶は出開度40~70%、二・三番茶は出開度50~60%をめどに摘採する。	一番茶	乗用型摘採機	2	0.4	0.8	各茶期とも適期を逸しないように、計画的に行う。 三番茶芽の芽伸び不良園では摘採を中止し、良好な園では8月上旬までにせん除する。	
			4月中~5月上旬		2	0.3	0.6		
			二番茶		2	0.3	0.6		
			6月上~下旬		2	0.3	0.6		
			三番茶		2	0.3	0.6		
整枝	整枝	萌芽前に新芽を切断しない高さで摘採面を整える。 刈番は摘採14~16日後に行う。 三番茶芽及び再生芽は8月10日までに行う。 秋芽の芽数が多い位置で行う。	3月上旬	乗用型摘採機(刈捨て装置)	1	0.2	0.2	一番茶萌芽前に樹冠面の乱れが見られる場合は、整枝を行う。 二・三番茶萌芽前に遅れ芽が見られる場合は、萌芽前に再整枝を行う。 秋整枝は秋芽の硬化を見て行い、寒害常襲地では春整枝(2月下旬~3月上旬)を行う。	
			5月上~中旬		1	0.3	0.3		
			6月中~下旬		1	0.3	0.3		
			7月下~8月上旬		1	0.4	0.4		
			10月中~下旬		1	0.4	0.4		

3. 技術体系

1-2) 作業体系 (乗用型)

(10a当たり: 人、時間)

作業の種類	栽培技術		作業体系				使用資材	技術の重要事項
	技術内容	作業時間	使用機械器具	組み作業人員	実作業時間	延べ作業時間		
整枝	裾刈り	畦間の空間が25cm程度になるよう裾部を刈り落とす。	各茶期後及び秋整枝前	自走式裾刈機	1	3.2	3.2	
更新	中切り	一番茶後に地際より45cm前後の高さで水平に行う。	5月中～下旬	乗用型中切り機	1	0.2 (1.0)	0.2 (1.0)	中切りは5年に1回実施する。
	せん枝	二番茶後に摘採面から10～20cm刈り下げる	6月中～下旬	乗用型摘採機(せん枝装置)	1	1.0	1.0	摘採後速やかに実施できる場合は、深めに刈り下げ、6月下旬には、浅刈り程度とする。
土づくり	土壌改良	秋肥施用の2週間前までに石灰資材を投入し、管理機で土壌と混和する。	7月下～8月中旬	乗用型管理機(施肥散布装置)	2	0.4	0.8	施肥基準による。 三番茶摘採後に酸度検定を行い、pH(純水)4.0～5.0に矯正する。
	深耕	隔年で行う。	8月上～下旬	乗用型管理機(深耕装置)	1	0.5 (1.0)	0.5 (1.0)	新根の発生が旺盛になる前に終えること。
	有機資材投入		12月上～1月下旬	乗用型管理機(堆肥散布・中耕装置)	2	0.4	0.8	堆肥2t以上 完熟堆肥を用いる。
環境整備	環境整備	圃場周辺の除草・排水対策、側溝、耕作道整備など。 機械・施設等を点検整備する。	1月～11月	草刈機等	4	2.0	8.0	除草剤散布の場合は、除草剤使用基準を適用する。 チェックシートを準備し、点検・清掃・部品交換等を行う。
			2月下～3月下旬			4	0.3	
合計							40.9	

注) ()内の数値は、1回の作業時間である。

4. 品目の作付体系 (○ 一番茶収穫、△ 二番茶収穫、□ 三番茶収穫、◇ 秋番茶収穫)

品目	1		2		3		4		5		6		7		8		9		10		11		12	
	上	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	
茶																								
(被覆栽培)																								

5. 作業別・旬別労働時間(10a当たり時間)

品目・作業/月・旬	1		2		3		4		5		6		7		8		9		10		11		12		計
	上	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下		
施肥・浅耕																									3.6
除草																									10.0
病害虫防除																									4.4
被覆																									3.0
摘採																									2.6
整枝																									1.6
糖刈り																									3.2
中刈り																									0.2
甘ん枝																									1.0
土壌改良																									0.8
深耕																									0.5
有機質材投入																									0.8
環溝整備																									9.2
労働時間計																									40.9
製茶加工																									2.7
計																									43.6
月計																									

6. 総労働時間

品目	1		2		3		4		5		6		7		8		9		10		11		12		計
	上	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下		
総労働時間																									8.720
うち委託労働																									5.460
うち臨時雇用労働																									2.050
うち臨時雇外労働																									1.210